

第1回「新大空港構想」有識者会議資料



令和5年6月7日（水）

熊本県 企画振興部



©2010 熊本県くまモン

目次

(熊本県における大空港構想)

1. 大空港構想 1

- 1-1 大空港構想とは 2
- 1-2 蒲島県政と大空港構想 3
- 1-3 大空港構想 (H24～H28) 4
- 1-4 大空港構想 (H24～H28) の成果 5
- 1-5 大空港構想 Next Stage (H28～) 6
- 1-6 大空港構想 Next Stage の主な成果 7

(阿蘇くまもと空港)

2. 阿蘇くまもと空港の概要等 11

- 2-1 空港の概要と沿革 12
- 2-2 新旅客ターミナルビルの開業 13
- 2-3 地理的特徴 14
- 2-4 航空ネットワーク 15
- 2-5 利用者の状況 16
- 2-6 九州の各空港との比較 17
- 2-7 空港機能の更なる強化 18
- 2-8 国際航空貨物について 19
- 2-9 空港アクセスについて 20

(空港周辺地域の企業集積とまちづくり)

3. TSMCの進出と産業の集積 23

- 3-1 TSMCの進出 24
- 3-2 半導体推進ビジョンの策定 25
- 3-3 産業の集積 27
- 3-4 人材育成・確保、産学官連携 30
- 3-5 地下水保全への取組 32

4. 新産業の創出と脱炭素への取組 34

- 4-1 UXプロジェクトの推進 35
- 4-2 RE100産業エリアの創造 39

5. 交通ネットワークの構築 43

- 5-1 熊本都市圏の道路交通状況 44
- 5-2 利便性の向上に向けた交通ネットワークの構築 45

6. その他 48

- 本日議論いただきたい内容
- 今後のスケジュール

熊本県における大空港構想

1. 大空港構想



1-1 大空港構想とは



大空港構想とは

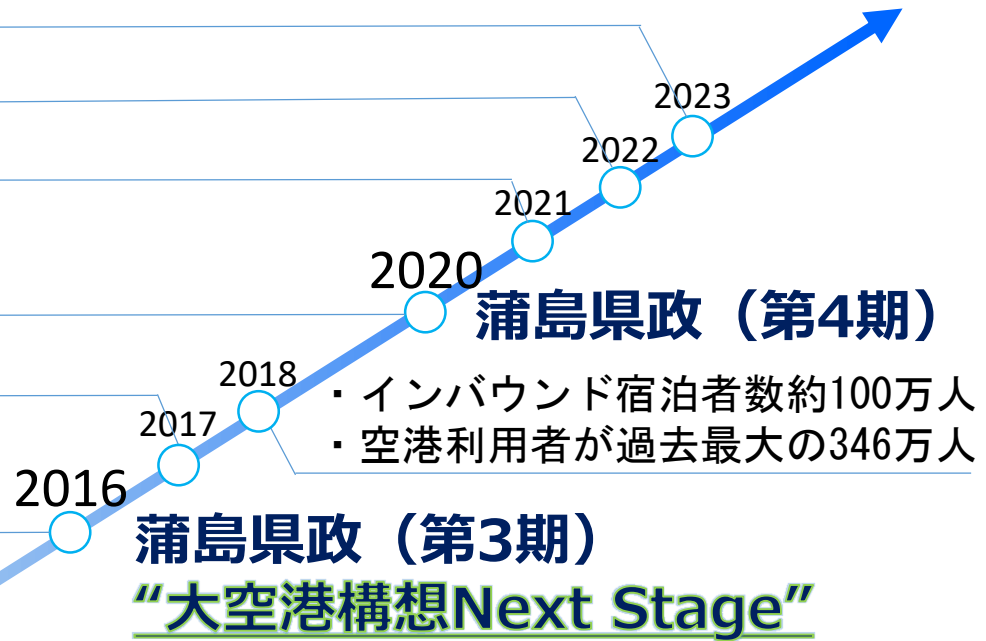
- 九州の中央に位置する阿蘇くまもと空港とその周辺地域一体を「大空港」と捉え、地域の可能性を掘り起こし、その最大化を図ろうとする構想
- 蒲島県政2期目の始動とともに大空港構想の実現に向けて、新規航空路線の誘致による交流人口の拡大や九州における広域防災拠点化等の施策を展開
- 蒲島県政3期目発足時に熊本地震が発生甚大な被害を受けた空港周辺地域の創造的復興を推進するため、『大空港構想 Next Stage』を策定、あらゆる施策を展開

1. 大空港構想

1-2 蒲島県政と大空港構想



- ・ 新ターミナルビル開業
- ・ 空港アクセス鉄道ルート決定
- ・ TSMCの熊本進出決定
- ・ **新型コロナウイルス感染拡大**
- ・ 阿蘇へのアクセスルートの回復
- ・ 熊本県総合防災航空センターの整備
- ・ **熊本地震**
- ・ 空港コンセッション方式の導入決定



**熊本地震からの創造的復興
が進むにつれて、空港を取り巻く
環境は大きく変化**

1-3 大空港構想（H24～H28）



基本的な考え方

“品格あふれる美しさ”、“先端技術産業の知の集積”、“九州を支える空港機能”が調和した『**日本一広く美しい空港**』を目指す。

取組みの方向性

『東アジア・日本全国との交流拡大』

～ヒト・モノ・知の交流拡大～

『“優しさ”と“美しさ”の向上・発信』

～利便性の向上と熊本の美しさ・イメージの発信～

『九州全域への貢献』

～防災・観光の拠点化～

1-4 大空港構想（H24～H28）の成果



『東アジア・日本全国との交流拡大』

～ヒト・モノ・知の交流拡大～

- ソウル線の週5便化の実現
- 台湾線（高雄）・香港線定期便就航
- 初のLCCによる成田便の就航



『“優しさ”と“美しさ”の向上・発信』

～利便性の向上と熊本の美しさ・イメージの発信～

- 空港アクセス強化に向けた空港ライナーの試験運行
- 空港の旅客ターミナルビル等のリニューアル
- 崇城大学との包括連携協定による

パイロットのふるさとづくり推進



『九州全域への貢献』

～防災・観光の拠点化～

- 空港を核とした「九州を支える広域防災拠点構想」の策定
- 国による「大規模な広域防災拠点」の指定



1-5 大空港構想 Next Stage (H28～)



全体の将来像

- 阿蘇くまもと空港を熊本地震からの「創造的復興のシンボル」として、空港周辺地域のポテンシャルを最大限に活かした創造的復興を実現
- 熊本県経済を力強くけん引する地域となる取組みを進めるとともに、誰もが安心して便利に暮らせる地域の実現

対象地域

空港周辺地域

(熊本市東部、益城町、西原村、大津町、菊陽町)

対象期間

平成28年度から概ね10年間

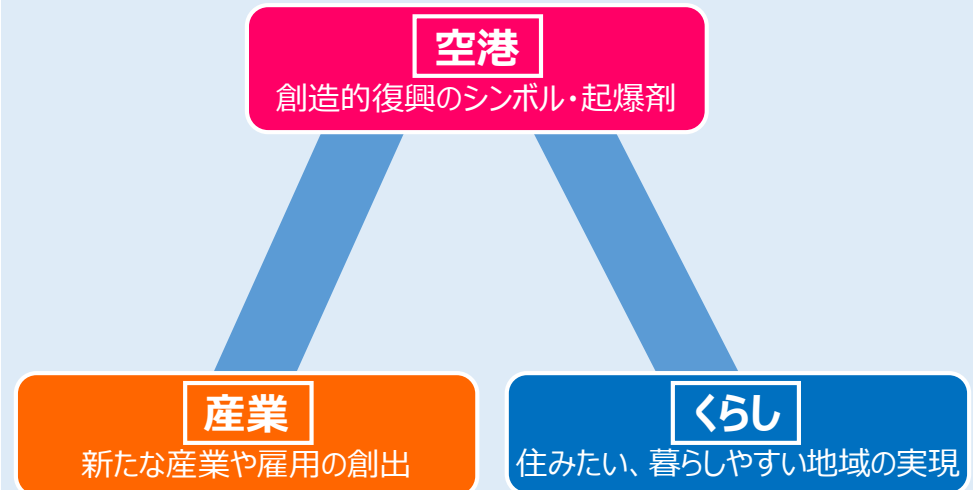
(→令和7年度(2025年度))

構想の位置づけ

- これまで本県が進めてきた「大空港構想」の取組みを更に充実・発展
- 阿蘇くまもと空港の周辺地域の創造的復興に資するグランドデザイン

目指す姿

空港の活性化を 産業・くらしに波及





1.大空港構想

1-6 大空港構想 Next Stage の主な成果 (1)

空港コンセッション方式の導入

平成28年12月6日

熊本地震により被災した阿蘇くまもと空港を創造的復興のシンボルとして、国内線と国際線が一体となったターミナルビルの建設とコンセッション方式の導入を決断



平成28年12月13日

石井国土交通大臣に「阿蘇くまもと空港へのコンセッション方式の導入」について要望

令和2年4月

熊本国際空港(株)による空港運営開始



ターミナルビルの設計段階からコンセッション方式を導入する全国初の取組みを実施

※国管理空港等の空港コンセッション方式としては国内4例目

熊本県総合防災航空センターの整備

「九州を支える広域防災拠点構想」に基づき、大規模災害時のヘリの集結拠点としての機能を強化するため、防災消防航空センターと警察航空隊基地を一体的に整備



平成29年10月竣工



広域防災拠点としての抜本的な空港機能強化



1.大空港構想

1-6 大空港構想 Next Stage の主な成果 (2)

空港ライナーの本格運行

平成23年10月
鉄軌道が接続しておらず、課題となっている空港アクセスについて、空港と最寄り駅のJR肥後大津駅を結ぶ『空港ライナー』の運行を開始。



平成29年4月
空港利用者の利便性向上及び空港アクセスのリダンダンシー（多重性）確保のため、『空港ライナー』を本格運行へ移行。



阿蘇くまもとと空港駅 (JR肥後大津駅) ←約15分→ 阿蘇くまもとと空港
空港ライナー JRと空港をつなぐアクセスルート! 無料・毎日運行

30分間隔で
1日54便の運行

阿蘇へのアクセスルートの回復

熊本地震で被害を受けた阿蘇へのアクセスルートを回復



国道57号線現道部



新阿蘇大橋





1.大空港構想

1-6 大空港構想 Next Stage の主な成果 (3)

空港周辺地域への企業誘致

UXプロジェクトの推進やTSMC進出等により、
空港周辺地域の価値、魅力が向上

くまもと臨空テクノパークの分譲完了



震災ミュージアムの整備

熊本地震の記憶を未来へ遺し学ぶ回廊型ワールドミュージアム「熊本地震 記憶の廻廊」を整備



<震災ミュージアムの中核拠点>



熊本地震震災ミュージアムKIOKU
(R5.7.15オープン)



熊本県防災センター
(R5.5.17本格運用開始)



1-6 大空港構想 Next Stage の主な成果（4）

「すまい」の再建

熊本地震により仮設住宅での生活を余儀なくされた20,255世帯、47,800人の99.9%が、すまいの再建を果たした（R5.3末時点）



残る5世帯、10人（R5.5末時点）についても、最後のお一人がすまいの再建を果たすまで支援を継続



熊本高森線の4車線化・土地区画整理

最も被害が大きかった益城町では、災害に強いまちづくりを推進するため、町の中心部を通る県道熊本高森線の4車線化や土地区画整理事業を推進

※県道熊本高森線の4車線化：800m区間を供用（R5.3.28）
土地区画整理事業：149画地を引渡し済（R5.5末時点）



基盤整備の効果を活かし、なりわいの継続や、にぎわいの創出も期待



阿蘇くまもと空港

2. 阿蘇くまもと空港の概要等



2-1 空港概要と沿革



空港概要

- ・総面積：1,779,665㎡
- ・滑走路：3,000m × 45m
- ・エプロン数：9スポット
- ・運用時間：14時間
(7:30～21:30)
- ・駐車場台数：2,103台

沿革

昭和46年

- ・熊本空港開港
- ・国内線ターミナルビル供用開始

昭和63年

- ・貨物ビル供用開始

令和5年3月

- ・国内線・国際線一体型の
新旅客ターミナルビル開業

昭和58年

- ・国際線ターミナルビル供用開始

令和2年4月

- ・熊本国際空港(株)による
空港運営開始

2-2 新旅客ターミナルビルの開業



2023年3月23日

阿蘇くまもと空港 新旅客ターミナルビル 開業

世界と地域にひらかれた九州セントラルゲートウェイ
～交流人口の拡大による“創造的復興”への貢献～
を標榜にプロジェクトを推進

「熊本に行きたい！」と思われる空港へ
「また熊本に来よう！」

2024年秋

「地域にひらかれた広場」とショッピングや食事が
楽しめる「商業ゾーン」を開業予定



2-3 地理的特徴



九州の中心、空の玄関口 好アクセスの阿蘇くまもと空港

阿蘇くまもと空港は、九州の中心に位置し、各県(県庁所在地)までの距離が約100km

- ✓ 陸路については、九州新幹線をはじめ九州中央自動車道や中九州横断道路が整備中
- ✓ 熊本駅から博多駅まで新幹線で最速32分
- ✓ 熊本駅から鹿児島中央駅まで新幹線で最速45分
- ✓ 阿蘇くまもと空港から天草空港まで飛行機で約25分
※各県までヘリで30分程度



2-4 阿蘇くまもと空港の航空ネットワーク



既存路線と将来の目標路線数

- 国内線
- 国際線



【国内既存路線】

- 羽田／成田
- 中部／小牧
- 伊丹／静岡
- 那覇／天草
- 計 8 路線

【国際既存路線】

- ソウル(仁川)
- 高雄／香港
- 計 3 路線※

※ソウルのみ運行(週7便)
(高雄・香港は運休中)
【令和5年6月7日時点】



※熊本-台北線 新規就航 (週3便)
【令和5年9月1日～運行予定】

2051年度の目標路線数・旅客数

国内線	国際線	旅客数(国内・国際)
8→11 路線	3→17 路線	622万人

2-5 利用者の状況



(単位：人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
国内線	2,861,661	3,009,739	3,055,112	3,163,477	2,947,589	3,187,803	3,254,131	3,159,141	848,976	1,357,911	2,336,982
国際線	34,711	45,826	51,806	70,567	34,609	156,161	206,699	114,240	0	0	8,278
合計	2,896,372	3,055,565	3,106,918	3,234,044	2,982,198	3,343,964	3,460,830	3,273,381	848,976	1,357,911	2,345,260

(出典：国土交通省 空港管理状況調査)
※令和4年度のみ速報値

平成30年度の年間 **346万人**が
国内線・国際線共に過去最高

・国内線はコロナ以前(R1)の約7割まで回復
・国際線はR5.1月～3月に約8千人が利用



2-6 九州の各空港との比較



空港名	滑走路 (長さ×幅)	令和元年度 旅客者数 (国内・国際)		運用時間	利用時間	令和3年度 貨物取扱量 (国内・国際)	
		国内	国際			国内	国際
福岡空港	2,800m × 60m	国内	1,757万人	24時間	7:00～22:00	国内	119,084トン
		国際	546万人			国際	26,507トン
		計	2,303万人			計	145,591トン
北九州空港	2,500m × 60m	国内	137万人	24時間	0:00～24:00	国内	2,185トン
		国際	23万人			国際	19,606トン
		計	160万人			計	21,791トン
九州佐賀国際空港	2,000m × 45m	国内	58万人	17.5時間	6:30～00:00	国内	784トン
		国際	15万人			国際	0トン
		計	73万人			計	784トン
長崎空港	3,000m × 60m	国内	309万人	15時間	7:00～22:00	国内	2,581トン
		国際	6万人			国際	2トン
		計	315万人			計	2,583トン
阿蘇くまもと空港	3,000m × 45m	国内	316万人	14時間	7:30～21:30	国内	4,485トン
		国際	11万人			国際	0トン
		計	327万人			計	4,485トン
大分空港	3,000m × 45m	国内	178万人	15時間	7:30～22:30	国内	3,005トン
		国際	5万人			国際	0トン
		計	183万人			計	3,005トン
宮崎ブーゲンビリア空港	2,500m × 45m	国内	316万人	14時間	7:30～21:30	国内	4,326トン
		国際	7万人			国際	0トン
		計	323万人			計	4,326トン
鹿児島空港	3,000m × 45m	国内	544万人	15時間	7:00～22:00	国内	14,324トン
		国際	32万人			国際	193トン
		計	576万人			計	14,517トン
那覇空港	3,000m × 45m 2,700m × 60m	国内	1,746万人	24時間	0:00～24:00	国内	169,518トン
		国際	315万人			国際	1,775トン
		計	2,061万人			計	171,293トン

2-7 空港機能の更なる強化



課題・懸案

- 国際線新規路線誘致や国内線の増便に向けた取り組みが必要
- 国際航空貨物の実現に向けた体制の構築が必要
- 空港運用時間が14時間と九州各県空港より短く、見直しを求める要望あり
- 空港アクセスについて定時性・速達性の確保など空港へのアクセス改善が喫緊の課題

現在の取り組み

- 台北線の新規誘致に係る取組
- 国際航空貨物実証輸送の実施
- 運用時間に関する航空会社のニーズ把握等
- 空港アクセス鉄道の整備推進

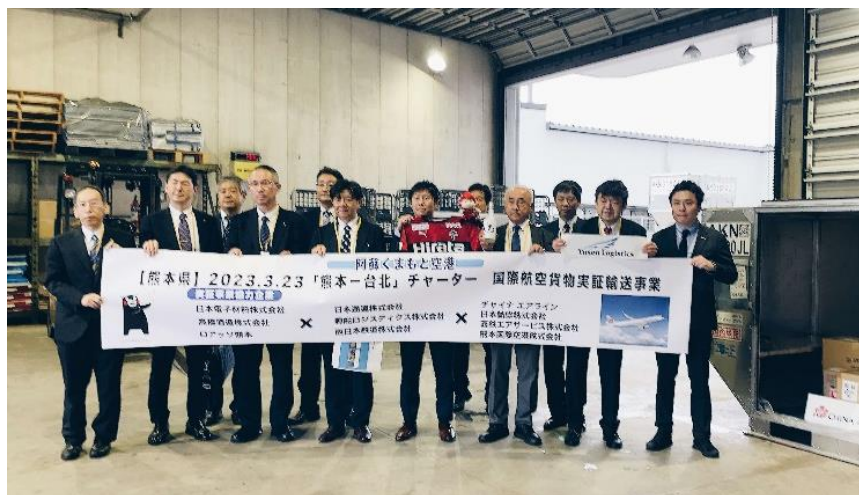


2-8 国際航空貨物について



● R4年度の取組み

阿蘇くまもと空港新旅客ターミナルビル開業日（R5.3.23）の「熊本－台北」チャーター便
運航にあわせて、台湾への「国際航空貨物実証輸送」を実施



令和5年度の取組み

航空会社、運送事業者等関係機関と連携し、国際航空貨物の恒常的輸送の実現に向けて、体制構築を推進

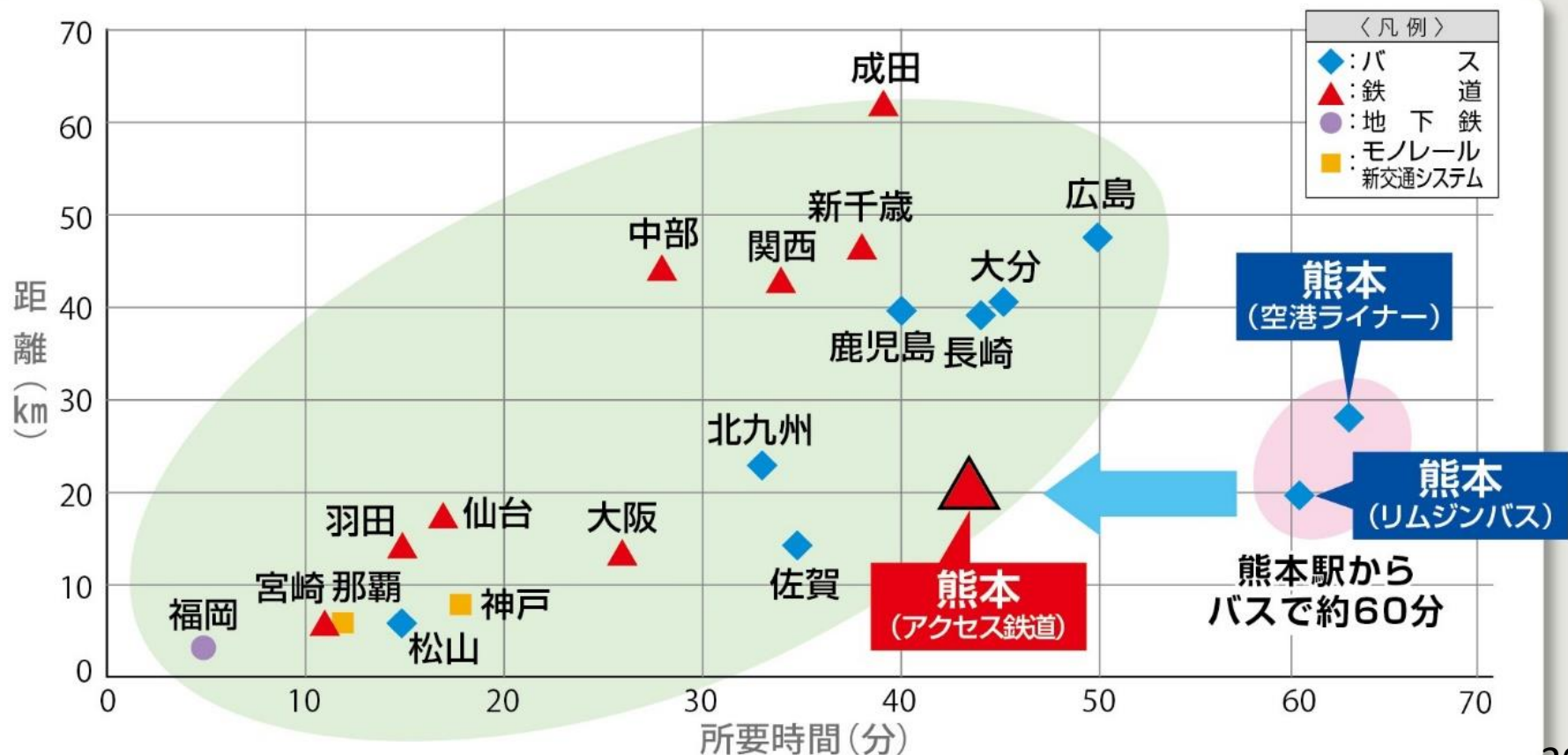
- 空港貨物上屋内における保税蔵置所（外国貨物の一時保管）の設置支援
- 通関情報処理システム及び爆発物検査装置の導入支援など

2-9 空港アクセスについて（鉄道ルート）（1）



● 現状と課題（各空港から主要ターミナル駅までの距離と時間）

現在の空港アクセスは自動車に依存しており、熊本都市圏では、三大都市圏を除く政令市で最悪の水準である交通渋滞により、定時性・速達性の確保など、空港アクセス改善は喫緊の課題。



2-9 空港アクセスについて（鉄道ルート）（2）



● 空港アクセス鉄道の効果

増加が見込まれる空港利用者の円滑な移動を確保するために、『定時性』『速達性』『大量輸送性』に優れた鉄道整備が不可欠

「定時性」の確保



所要時間を正確に把握可能

- 渋滞の影響を受けない効率的な移動が可能となり、観光地等での滞在時間の延長が期待

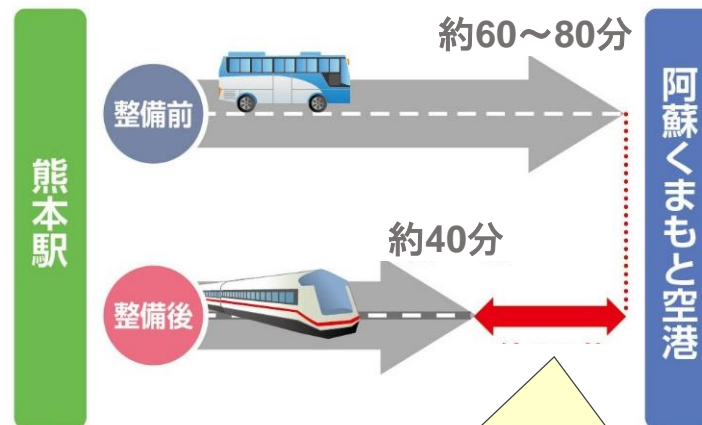
「大量輸送性」の確保



「速達性」の確保



渋滞が激しい時間帯（朝夕）は、熊本駅から80分程度かかることも



現状バスで

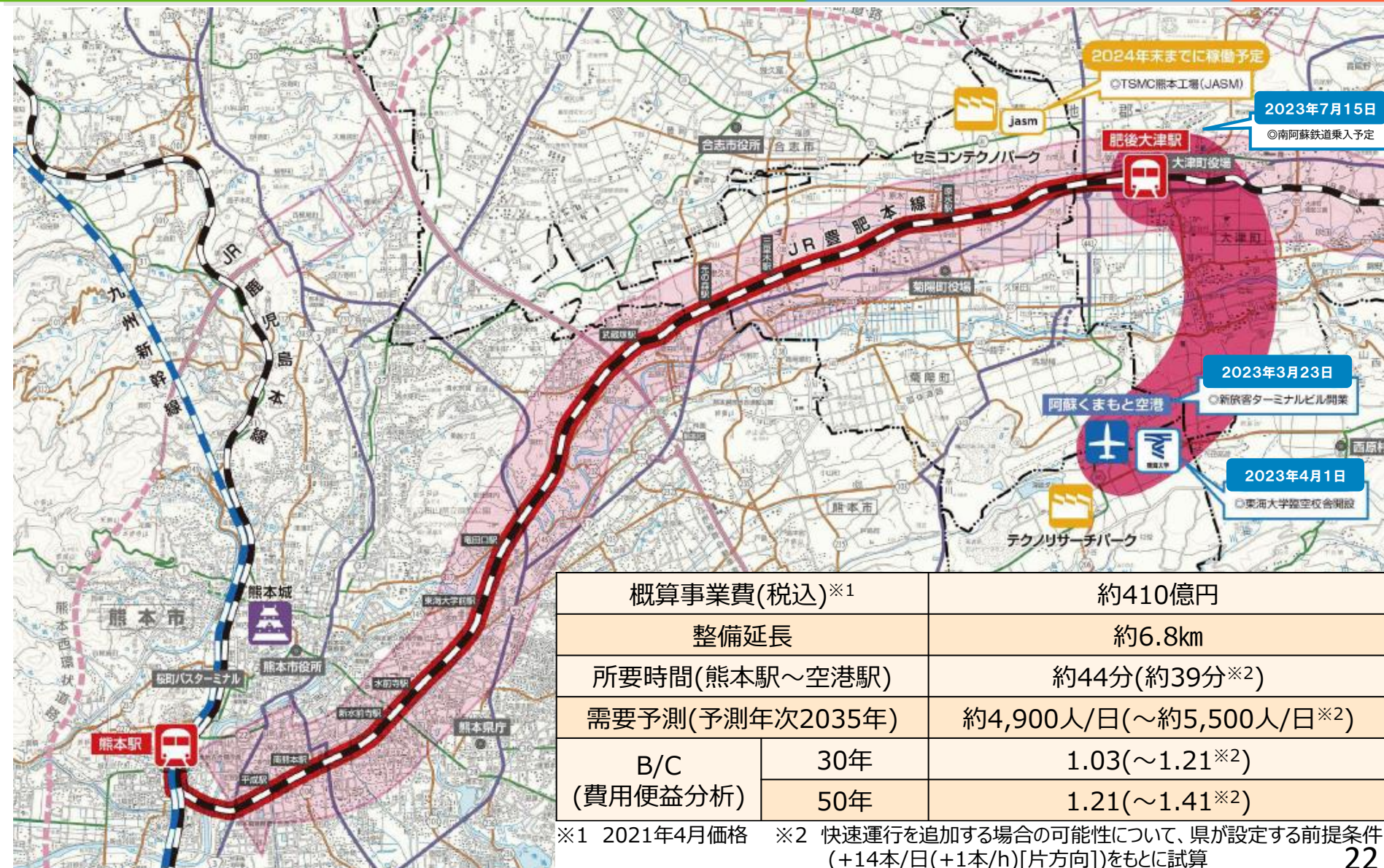
約60～80[※]分 → 約40分

※朝夕渋滞時

（約20～40分短縮）

2.阿蘇くまもとと空港の概要等

2-9 空港アクセスについて（鉄道ルート）（3）



空港周辺地域の企業集積とまちづくり

3. TSMCの進出と産業の集積



3. TSMCの進出と産業の集積

3-1 TSMCの進出

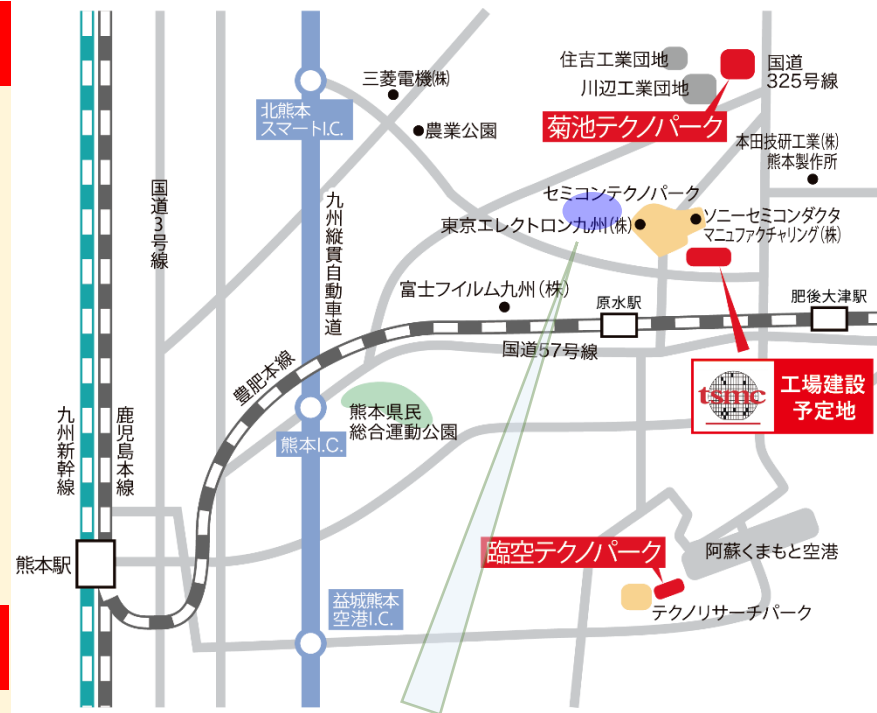


TSMC(JASM)の熊本進出について

- 世界的半導体メーカーのTSMCが、日本で初めての工場を熊本に建設することが決定
- ソニーグループもTSMCとの合弁会社設立に参画
- 国も、国家プロジェクトとして、JASMの工場建設計画を認定し、最大4,760億円の助成額を予定。
- 新生シリコンアイランド九州の実現に向け、半導体関連産業のさらなる集積に期待

JASMの概要

- 建設場所：菊陽町原水（セミコンテクノパーク隣接地）
- 建設開始：2022年4月
- 稼働開始：2024年末まで
- 設備投資額：86億米ドル
- 雇用予定者数：約1,700人
- 月間生産能力：55,000枚



2023年5月25日

ソニーグループが合志市に約27haの土地取得計画を公表。中長期的な画像センサー需要の拡大を見据え、生産能力を增强するため、数千億規模の投資を予定。

3-2 半導体推進ビジョンの策定 (1)



● くまもと半導体産業推進ビジョンの策定

令和5年3月

TSMCの熊本県進出を契機とした**半導体産業をはじめとする県内産業の更なる振興と県下全域における県経済の成長の実現**を目指しビジョンを策定

県内半導体産業の更なる成長のために対策すべき3つの課題の解決を目指す

- ①半導体を安定的に生産するために必要な**競争力やインフラなどへの不安**
- ②直近及び将来的な**半導体人材の不足**
- ③アカデミア、産業界など**多様なプレイヤーとの連携機会の不足**

くまもと半導体産業推進ビジョン有識者懇話会委員

 <p>東 哲郎 (ひかし てつろう)</p> <p>・Rapidus株式会社 取締役会長 ・TIA運営最高会議 議長</p>	 <p>南川 明 (みなみかわ あきら)</p> <p>・OMDIA シニアコンサルティング ディレクター</p>
 <p>平田 雄一郎 (ひらた ゆういちろう)</p> <p>・平田機工株式会社 代表取締役社長 ・熊本経済同友会 代表幹事</p>	 <p>桑田 薫 (くわた かおる)</p> <p>・東京工業大学 理事・副学長</p>
 <p>黒田 忠広 (くろだ ただひろ)</p> <p>・東京大学大学院工学系研究科教授 d.labセンター長</p>	 <p>安田 哲二 (やすだ てつじ)</p> <p>・産業技術総合研究所 執行役員 兼エレクトロニクス・製造領域長</p>

※令和5年3月時点

『**世界に半導体を供給し続ける**』 『**半導体人材が集う**』
『**半導体を核として産業が創出される**』 拠点として、
半導体インフラを支え、挑戦し続ける熊本へ

3-2 半導体推進ビジョンの策定 (2)



2030年頃に向けて目指す姿
半導体インフラを支え、挑戦し続ける熊本

くまもとの半導体が世界中のデジタルを支えている

世界に半導体を供給し続ける拠点

- 強靱な半導体サプライチェーンを有する世界における重要な半導体集積拠点
- 世界に範たる環境と調和した産業の形成 → 半導体サプライチェーン全体で、脱炭素化やGX、環境負荷が低減
- 世界に先駆けた三次元積層実装産業集積地

半導体人材が集う拠点

- 世界トップレベルの半導体人材が集い、活躍している
- あらゆる世代の県民が半導体に親しみと、誇りを持っている

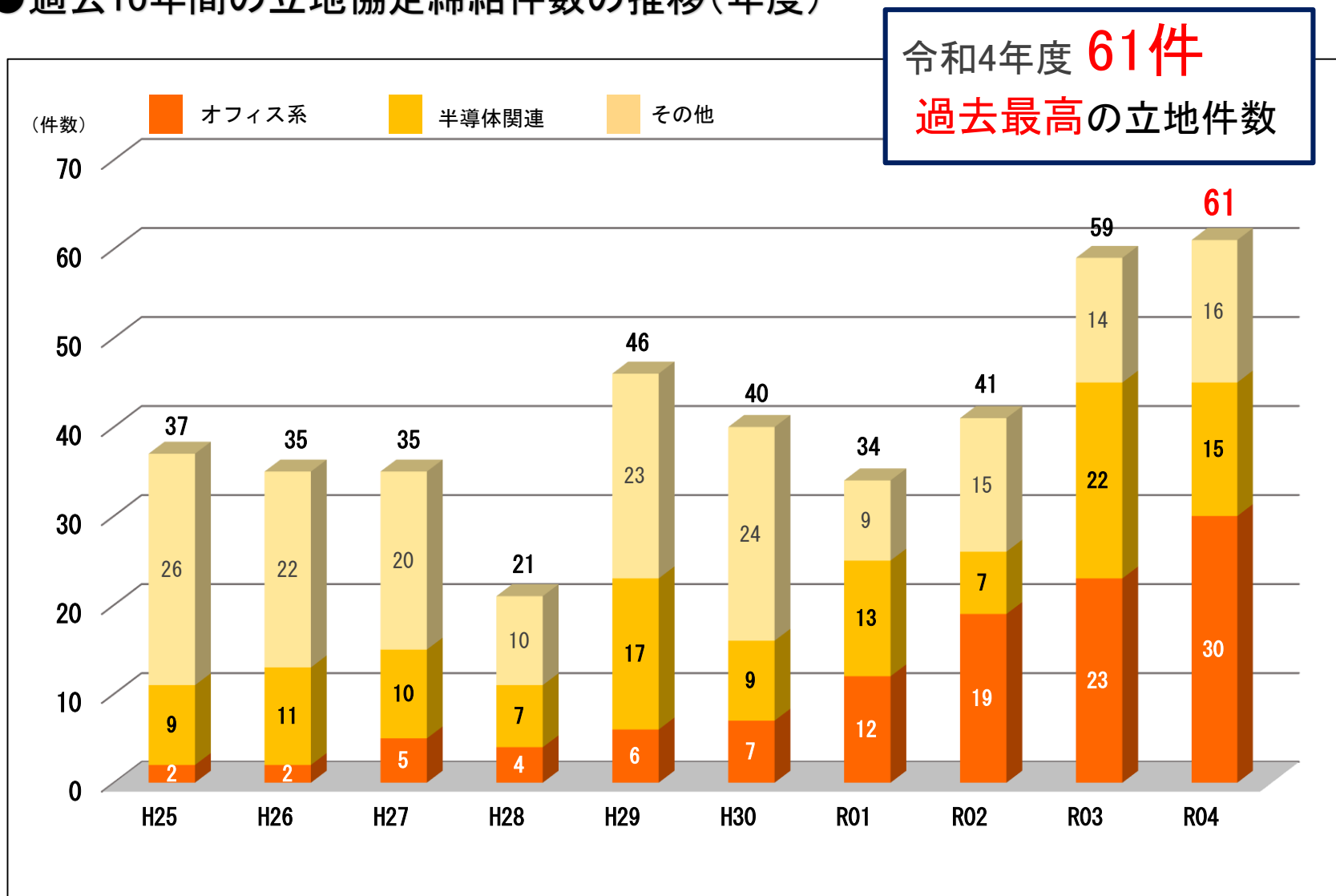
半導体を核とした産業創出拠点

- 異分野融合によるベンチャー・スタートアップや新たな産業の創出
- 最先端の半導体を利用したDX/GXの推進
- 世界中からヒト・モノ・カネが集まり、世界と繋がるイノベーション・エコシステム拠点

3-3 産業の集積 (1)



● 過去10年間の立地協定締結件数の推移(年度)



3-3 産業の集積（2）



課題・懸案

- 企業立地協定締結件数が過去最高を更新する中、工業用地や住宅用地が不足
- 農地や市街化調整区域も含めた用地の確保が必要
- 農業が盛んである本県の強みを踏まえ、農業と工業のバランスの考慮が必要

現在の取組

- 農業振興と企業進出の両立が図られた土地利用調整ができるよう、調整会議を設置
- 新たな工業団地の整備（菊池市、合志市）
- 空港周辺地域の市町村主導による工業用地、住宅用地の整備

県営工業団地 2 箇所の整備を進めるとともに
市町村の工業用地、住宅用地の整備が
スムーズに進むよう取組みを支援

3-3 産業の集積 (3)



●工業用地・住宅用地等の整備計画

整備自治体	整備場所	想定面積	分譲開始 予定時期
熊本県	菊池市旭志川辺(菊池テクノパーク西側付近) (菊池市)	約25ha	令和8年度
熊本県	中九州横断道路沿い (合志市)	約25ha	令和8年度
益城町	益城町惣領付近 (グランメッセ熊本北側)	約9ha	令和7年度
合志市	合志市福原付近 (セミコンテクノパーク西側)	約11ha	令和7年度
西原村	西原村鳥子 (現鳥子工業団地東側)	約10ha	令和6年度
大津町	中九州横断道路沿い (大津西IC設置予定地北東側)	約10ha	令和9年度
熊本市	市内4エリアを対象に民間整備事業者による産業用地整備を 公募 ①植木IC付近 ②北熊本SIC付近 ③城南SIC付近 ④県道熊本空港線・国道443号沿線	未定	令和7年度

※現時点の予定であり、面積、場所等は変更となる可能性があります

3-4 人材育成・確保、産学官連携（1）



課題・懸案

- 九州の半導体産業における人材が、今後10年で毎年1,000人程度不足する見込み
- 半導体産業の更なる集積に向けて、産業界が求める人材の育成・確保が必要



現在の取組

- 『九州半導体人材育成等コンソーシアム』の設立
- 大学・高専・技術短期大学校等で半導体産業の人材を育成



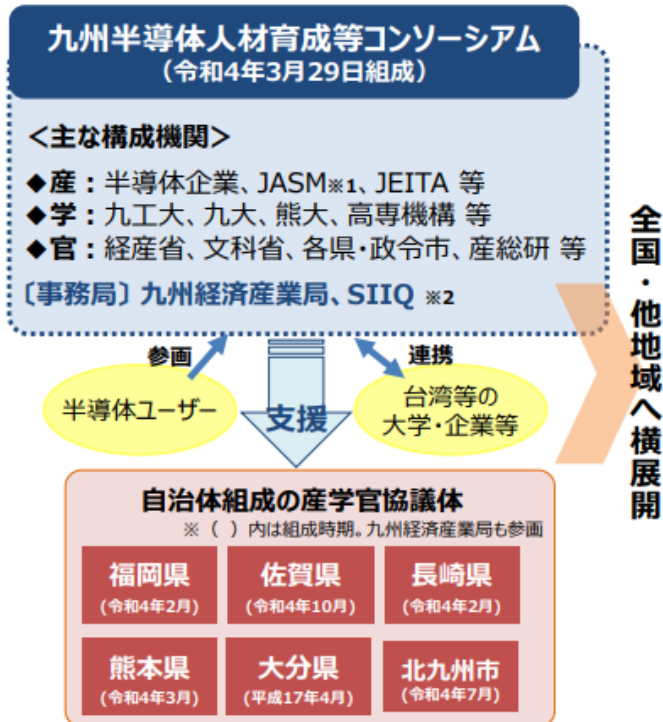
産学官が連携し、半導体の魅力を発信
九州全体で半導体産業の人材の育成・確保へ

3-4 人材育成・確保、産学官連携 (2)



九州半導体人材育成等 コンソーシアムの設立

産学官が連携し、九州全体で半導体産業の人材を育成・確保



※1: Japan Advanced Semiconductor Manufacturing(株)
(TSMC、ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)、(株)デンソーの合併会社)
※2: 九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会

県内教育機関における 半導体教育の推進

県内教育機関において半導体産業の人材を育成

熊本大学

- ・工学部「半導体デバイス工学課程」及び学部相当の『情報融合学環』を設置予定 (R6.4)

熊本県立技術短期大学校

- ・新学科『半導体技術科』を設置予定 (R6.4)
- ・構造改革特区の認定を受け熊大への編入学が可能に

熊本高専

- ・新科目「半導体工学概論」を開講 (R4.4)
- ・半導体人材育成に関する拠点校に指定される (R4.5)
- ・教員を対象に半導体製造実習を実施 (R4.8)

3-5 地下水保全の取組



地下水涵養の推進 (1)

平成16年度～

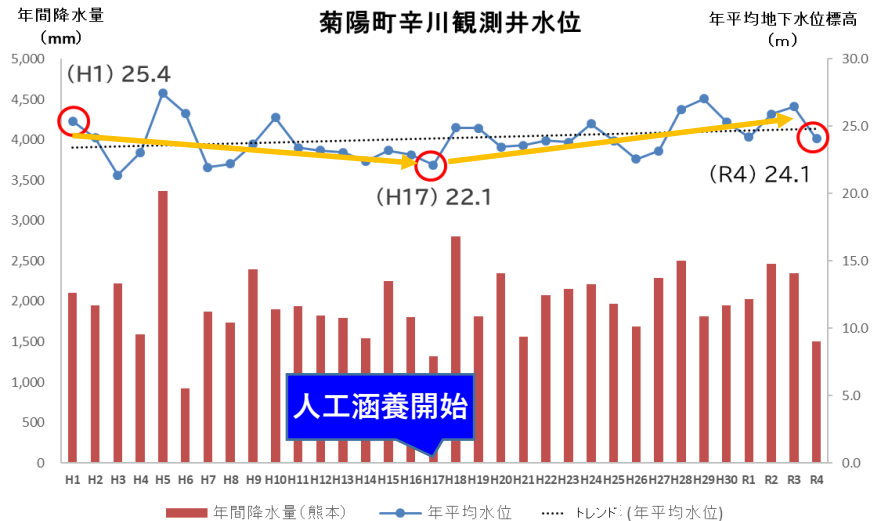
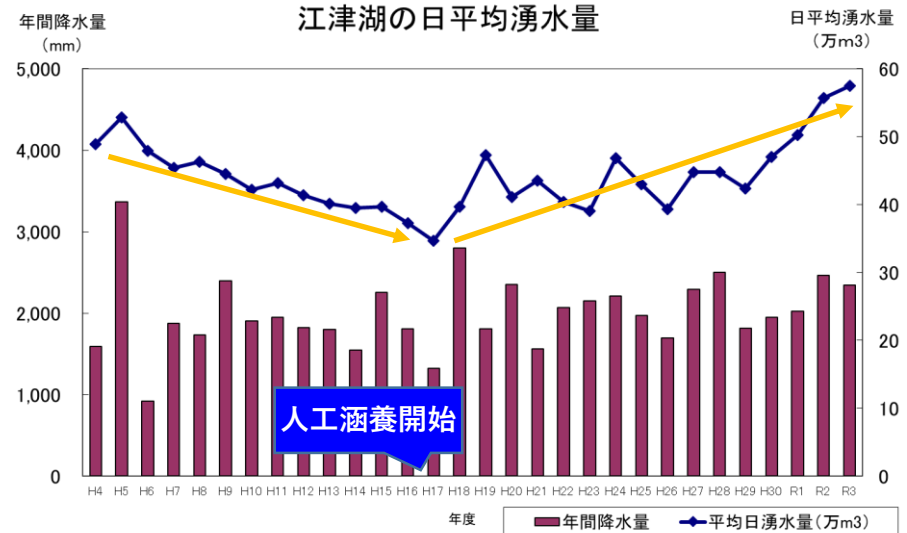
地下水位の長期低下傾向を踏まえ、白川中流域で人工的な地下水涵養を実施



人工的な地下水涵養を開始後、県の観測井戸の水位の多くは回復傾向へ



白川中流域
水田湛水



3-5 地下水保全の取組



地下水涵養の推進 (2)

TSMCの進出を契機とした半導体関連産業の集積が期待される中、地下水の取水量と涵養量のバランスを維持することが必要

熊本の宝である地下水を未来に残し、環境保全と経済成長が両立した持続可能な水循環体制の構築へ

**事業者に採取量と同等量の
地下水涵養を求めるよう
「地下水涵養指針」を改定へ**



行政・団体・企業による協議



熊本の地下水の保全に向けた協定締結
(左から水循環型営農推進協議会、県、JASM、菊陽町、(公財)くまもと地下水財団)

4. 新産業の創出と脱炭素への取組



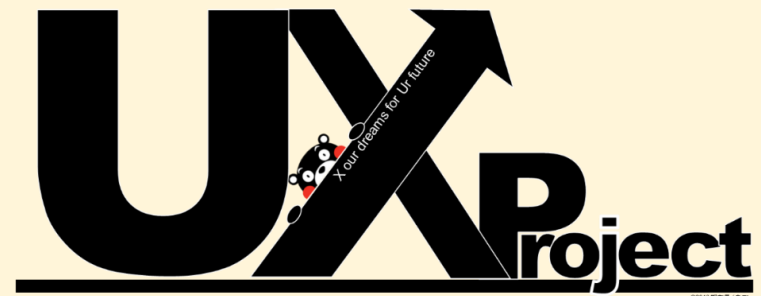
4-1 UXプロジェクトの推進（1）



- 熊本県経済を支える半導体産業・自動車関連産業に次ぐ、「県内産業の第3の柱」の創出を目指すべく、従来より熊本県が強みを持ち、既に多くの有力企業・スタートアップ企業が存在するライフサイエンス分野の産業化を目指す
- 空港に隣接するテクノロジーパークに、いわゆるイノベーションハブを将来的に設置し、拠点とすることを旨とする



- 2020年10月
変革する空港周辺地域を新産業創出の拠点とするためUXプロジェクトを始動



・空港周辺地域を、起業家・企業・研究者等が集い賑わいが創出される「**知の集積拠点**」へ

「UX」は以下のメッセージを含めた熊本県の造語

- ・U：“You”、“結う”、“熊(ゆう)”
- ・X：“CROSS”、“未知”

4-1 UXプロジェクトの推進（2）



「“第3の産業の柱”の創出、更には県の持続的発展のための エコシステムの形成」という遠大な目標に挑戦中

課題・懸案

- 短期的視点: 個社の先鋭事業は複数あるが、総体として大きな“賑わい”に繋がっていない
- 短期的視点: 人や技術がリアルに集い、OI(オープンイノベーション)を誘発する“場”が無い
- 中長期的視点: 産業化・エコシステム化を強力にけん引する企業・研究機関等が不在

現在の取組

- 賑わいに繋がる、プレイヤーの集積やネットワークの形成等を実施
- 空港周辺地域のテクニサーチパーク内にOIの核となる“Pre-UXイノベーションハブ”の開設、また“UXイノベーションハブ”の整備に向けた検討を実施

熊本が強みを持つ「ライフサイエンス分野による産業の柱の形成を目指す」と同時に、「熊本だけが持つ特徴（例：ライフサイエンス×半導体）を活かす」エコシステム形成を創造・推進する

4-3 UXプロジェクトの推進（3）



令和4年度UXプロジェクト実証実験サポート事業での支援事例

採
択
事
業
者

再春館製薬所



株式会社再春館製薬所
H2株式会社

糖化の抑制による健康寿命の延伸と
心身のアンチエイジング

- モニターが血糖値測定センサーと保健指導アプリで自身の血糖状態を日常から計測
- 不知火菊・焼酎粕成分の摂取や保健指導による糖化抑制などの効果を検証
- **約100名のモニターを対象に実証実験を実施**

実
証
内
容



トイメディカル株式会社

日頃の食生活における塩分モニタリング・ケアを通じて好きな食生活を我慢せず健康を目指すプロジェクト

- モニターが自社開発の塩分吸収抑制サプリを摂取
- 食事管理アプリも併用し、尿中の塩分濃度や健康意識の変化を検証
- **約200名のモニターを対象に実証実験を実施**



医療法人桜十字
株式会社ACCELStars

睡眠可視化で快眠サポート
～生活習慣病の予防～

- モニターが世界最高精度のデバイスを着用して睡眠の質を計測
- 血液・血圧検査も行い、睡眠衛生指導による睡眠の質の変化を検証
- **約30名のモニターを対象に実証実験を実施**

4.新産業の創出と脱炭素への取組

4-1 UXプロジェクトの推進（4）



UXメンバーシップ制度登録者：390名（282社） R5.5.31現在

実証実験支援：13件



R4年度における取組事項

<p>九州産交バス株式会社 産交バス 熊本電鉄 熊本バス株式会社 熊本県庁</p> <p>九州産交バス株式会社 産交バス株式会社 熊本電鉄株式会社 熊本バス株式会社 熊本市バス株式会社</p> <p>未来を見据えたノーマイカーデー実証実験～菊池南部地域の工業団地周辺をターゲットとして～</p>	<p>再春館製薬所 H2株式会社 株式会社再春館製薬所 H2株式会社</p> <p>糖化の抑制による健康寿命の延伸と心身のアンチエイジング</p>	<p>桜十字病院 ACCELStars</p> <p>医療法人桜十字株式会社ACCELStars</p> <p>睡眠可視化で快眠サポート～生活習慣病の予防～</p>	<p>TOY MEDICAL</p> <p>トイメディカル株式会社</p> <p>日頃の食生活における塩分モニタリング・ケアを通じて好きな食生活を我慢せず健康を目指すプロジェクト</p>	
<p>阿部牧場 ASO KUMAMOTO</p> <p>有限会社 阿部牧場</p> <p>プロジェクト▶チーズ製造時に発生する未利用資源ホエーの活用法</p>	<p>KUMAMOTO KEIWA The best tea from Minami-Aso for each and everyone</p> <p>株式会社クマモト敬和</p> <p>プロジェクト▶南阿蘇産ハーブを世界に広げるプロジェクト</p>	<p>株式会社イノP</p> <p>プロジェクト▶日本初!! サステイナブルなカモ対策～ICT無双網によるカモ捕獲と活用～</p>	<p>ハナウタカジツ</p> <p>プロジェクト▶届ける一箱につめる幸福量の最大化</p>	
<p>RKK 熊本放送 株式会社熊本放送</p> <p>プロジェクト▶ローカル局発! 「視聴者参加型IP創出コミュニティプラットフォームの構築」</p>	<p>kmb KMバイオロジクス KMバイオロジクス株式会社</p> <p>プロジェクト▶赤ちゃんの産まれて初めての健康診断! 新生児マススクリーニングの理解促進に向けた情報発信プラットフォーム</p>	<p>杉養蜂園 SUGI BEE GARDEN 株式会社杉養蜂園</p> <p>プロジェクト▶デジタル巣箱開発事業/子供向け"蜜育"ブランド開発事業</p>	<p>富田薬品 富田薬品株式会社</p> <p>プロジェクト▶「新たな需要予測システムの開発」による医薬品流通の精度向上/遠隔医療に最適化したスマートデバイスの開発</p>	<p>UNITED TOYOTA KUMAMOTO ユナイテッドトヨタ熊本株式会社</p> <p>プロジェクト▶NEXT KUMAMOTO City: 人生100年時代のドライブシティ実現に向けた高齢者向けサービスの創出/「車両のCO2算定サービス」を入り口とした熊本の脱炭素化</p>

データ連携システム調査

SoftBank
ソフトバンク株式会社
プロジェクト▶熊本県におけるデータ連携システムの在り方検討

データ解析・健康指導プロジェクト

熊本大学 Kumamoto University UKINISUM
国立大学法人熊本大学(特任教授 中村振一郎) / 宇城市
プロジェクト▶健康データでも解く、効果的な健康増進のヒントについて

4-1 UXプロジェクトの推進（5）



UXプロジェクトの拠点整備

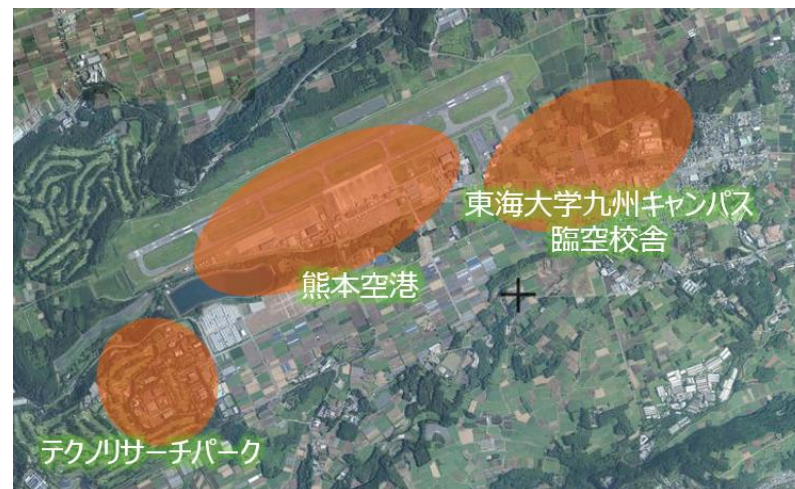
- R4年10月に人や技術の交流を図る拠点として、「**Pre-UXイノベーションハブ**」を整備。
- R9年度開所を目標に、本格的なイノベーション創発拠点である「**UXイノベーションハブ**」を整備し、テクニサーチパークを中心とした賑わい創出に寄与する。

周辺拠点との連携

- 周辺エリアの地域活性化を目的とし、**熊本県、熊本国際空港、東海大学** 3者で令和4年8月26日に**連携協定を締結**。
- 本連携のもと、**オープンイノベーションを誘発**し、特に東海大学と連携した「**フード・アグリテック分野**」の産業化を早期に目指す。



「空港周辺エリアを活用した地域活性化に関する連携協定」
締結式（R4.8.26）



空港周辺における位置図

4-2 空港周辺RE100産業エリアの創造（1）



課題・懸案

- TSMC等のグローバル企業が宣言する「RE100」やESG投資の広がりによりみられるように脱炭素化や再エネ導入の度合により投資家や取引先から選別される時代
- 地域における脱炭素を出来るだけ早期に実現することが、環境への貢献と同時に企業立地や投資上の魅力を高め、地域の産業競争力の維持・向上に繋がる



現在の取組

- 令和4年度に学識者、再エネ事業者、金融機関等からなる検討委員会を設置し、RE100エリア創造基本構想を策定
- 基本構想に基づき、本県と関連するステークホルダーと連名で環境省「脱炭素先行地域」の応募に向けて調整中



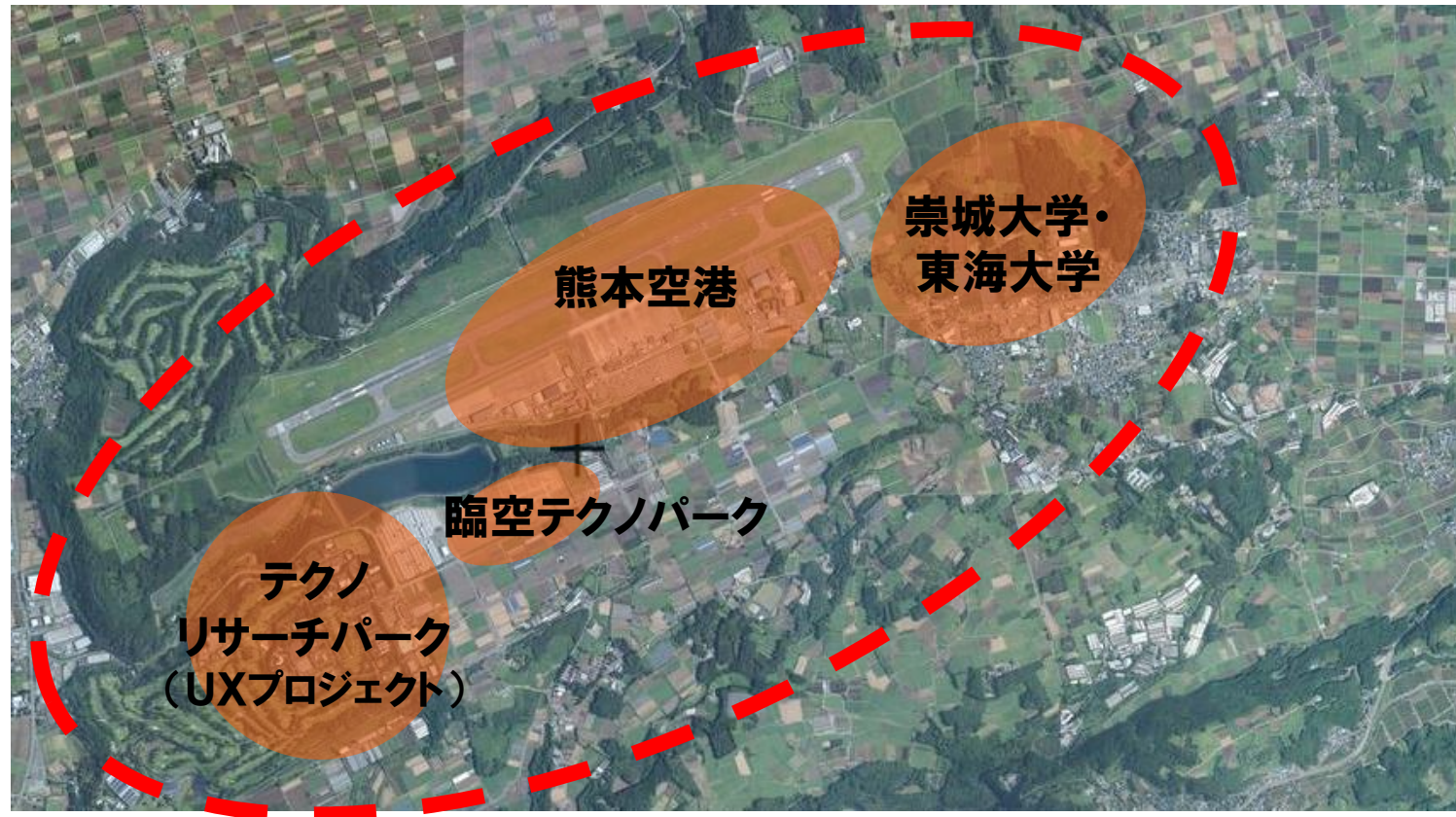
**阿蘇くまもと空港周辺地域でのRE100
産業エリアの創造を目指す**

4-2 空港周辺RE100産業エリアの創造（2）



- 第2次熊本県総合エネルギー計画の重点取組として『空港周辺地域でのスマートシティ創造』を推進
⇒ 熊本空港を中心とする約8.7km²のエリアを **脱炭素先行地域** として検討中

本エリアから近隣地域や県内各地に脱炭素ドミノを広げる！

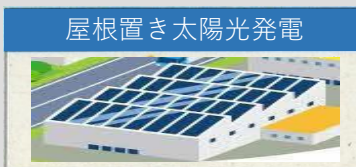


4-2 空港周辺RE100産業エリアの創造 (3)



●熊本空港周辺地域の脱炭素化コンセプト(検討イメージ)

再エネ電源 (エリア内、エリア周辺)



非化石証書付き電力の購入

地場の電設・IT系企業、再エネ系ベンチャー企業、電力事業者等による設立を想定

地域エネルギー会社

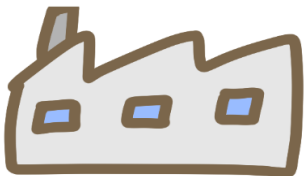
- 受給調整システム
- 大型蓄電池
- 自営線

◆ V P P

◆ P P A

災害時の電力供給体制の整備

電力需要者



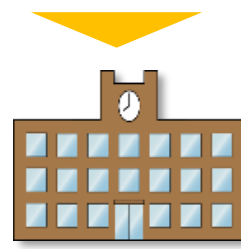
● 進出企業



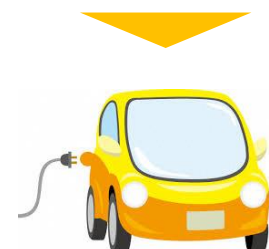
● 熊本空港



● テクノサーチパーク入居企業



● 大学施設



● エリア内移動用EV等

5. 交通ネットワークの構築

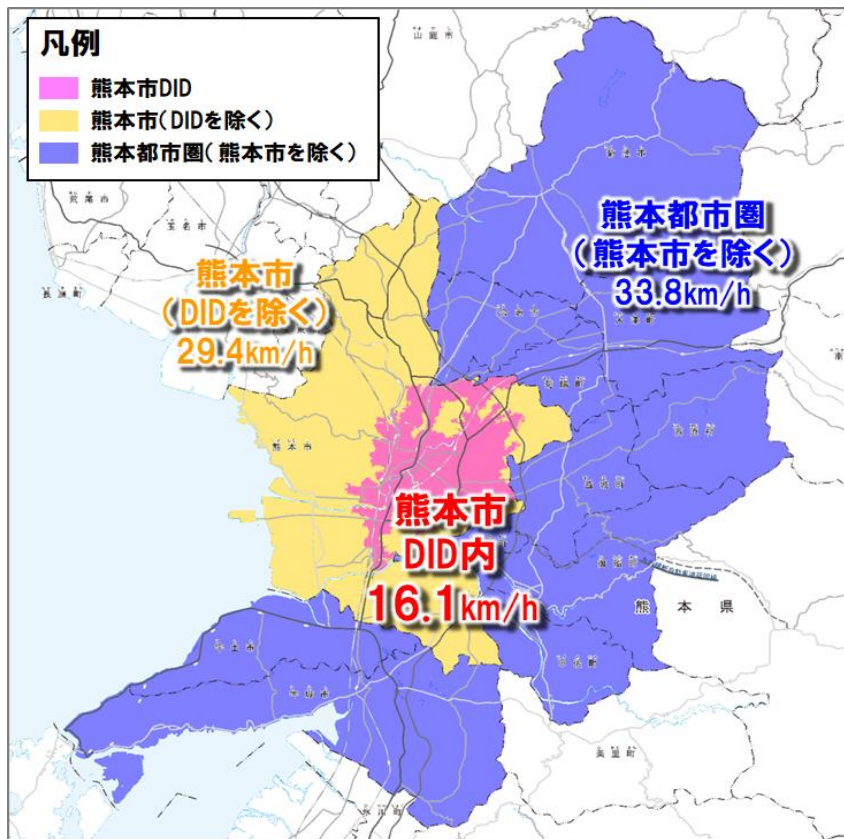


5-1 熊本都市圏の道路交通状況



● 熊本都市圏の道路交通状況

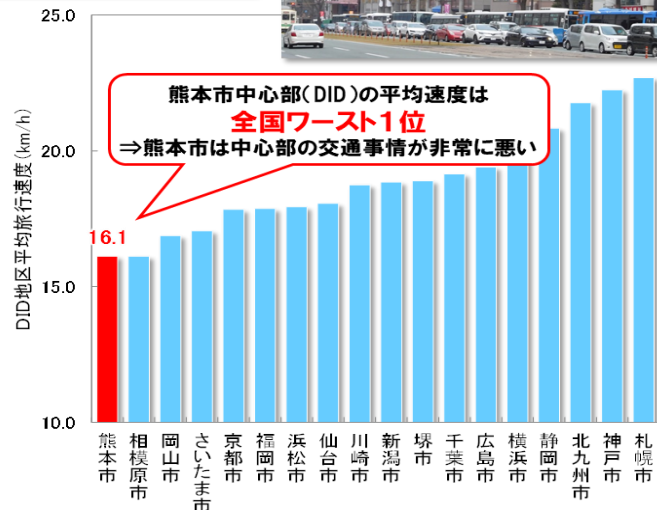
熊本都市圏の平均速度



資料: 全国道路・街路交通情勢調査(H27)

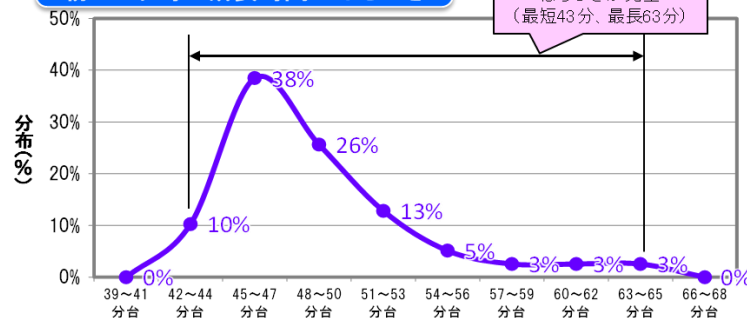
※DID (人口集中地区)
人口密度4千人/km²以上の単位地区が隣接して、
人口5千人以上となる地区

全国政令指定都市の平均速度(DID内)



※各市のDID範囲を対象に、高速道路は除いて集計
※3大都市圏に該当する政令指定都市(東京、大阪、名古屋)は除いて集計
資料: 全国道路・街路交通情勢調査(H27)

熊本空港→熊本駅 朝ピーク時の所要時間のばらつき



資料: プローブデータ(H29.2平日7時台~8時台)

5-2 利便性の向上に向けた交通ネットワークの構築 (1)



課題・懸案

- 多くの県民の移動手段は自家用車（乗用車）
- 熊本市内の渋滞は、三大都市圏を除く政令市で最悪の水準
- 通勤時間帯の工業団地周辺やイベント開催時の会場周辺の渋滞対策も必要
- ハード・ソフトの両面から渋滞解消に向けた取組みが必要



現在の取組

- 中九州横断道路や九州中央自動車道などの整備促進等
- 10分・20分構想の実現に向けた、熊本都市圏3連絡道路の検討
- 渋滞解消へ向けた道路整備（交差点改良・バイパス整備等）
- 公共交通機関の活用に向けた実証実験



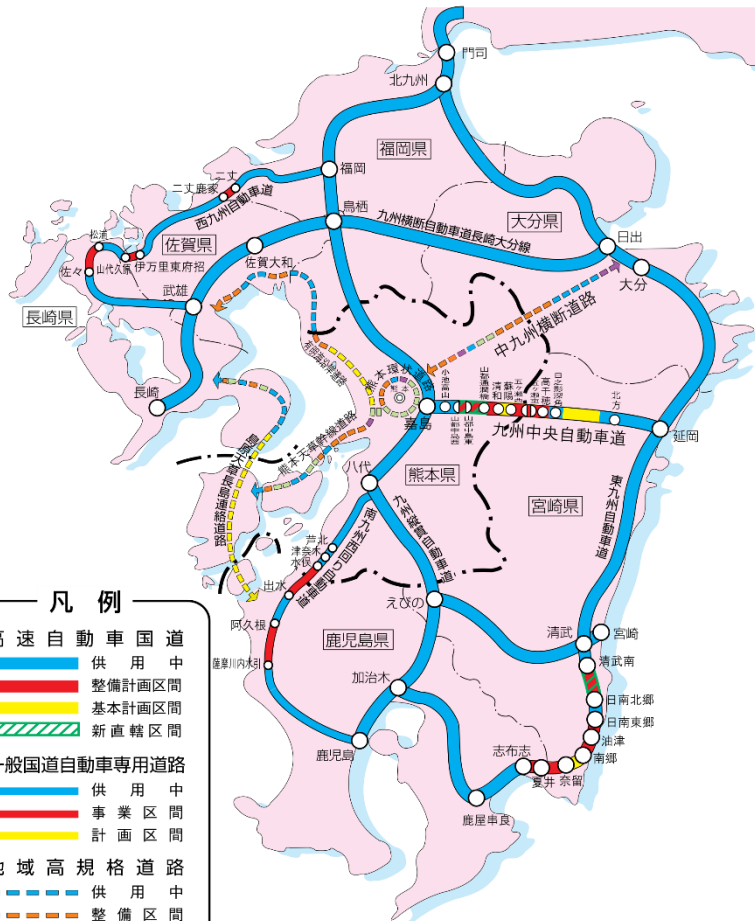
“全ての道は熊本に通じる”との考えのもと
中長期的な道路整備計画を含め
ハード・ソフト双方の施策により利便性の向上を目指す

5.交通ネットワークの構築

5-2 利便性の向上に向けた交通ネットワークの構築 (2)

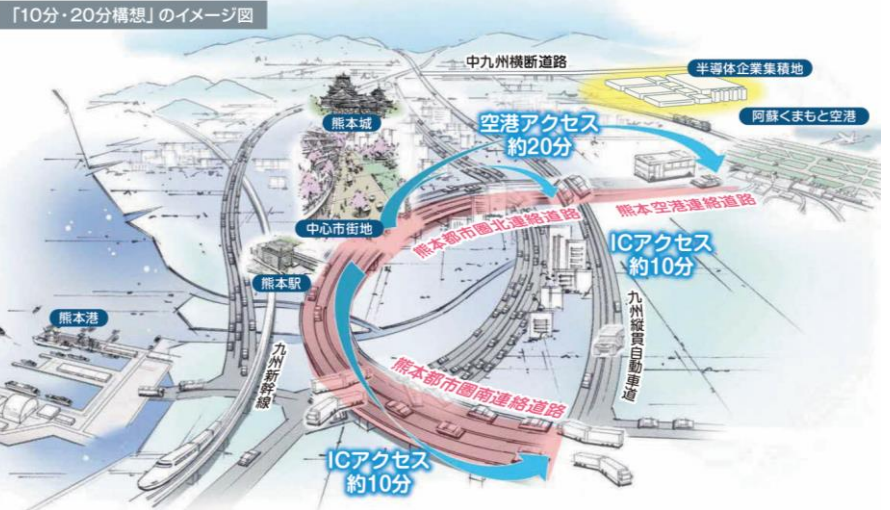


●九州の高規格道路ネットワーク



- 凡例
- 高速自動車国道
 - 供用中 (Blue solid line)
 - 整備計画区間 (Red solid line)
 - 基本計画区間 (Yellow solid line)
 - 新直轄区間 (Green dashed line)
 - 一般国道自動車専用道路
 - 供用中 (Blue solid line)
 - 事業区間 (Red solid line)
 - 計画区間 (Yellow solid line)
 - 地域高規格道路
 - 供用中 (Blue dashed line)
 - 整備区間 (Red dashed line)
 - 調査区間 (Purple dashed line)
 - 計画路線 (Green dashed line)
 - 候補路線 (Yellow dashed line)

●熊本都市圏の新たな高規格道路



5-2 利便性の向上に向けた交通ネットワークの構築 (3)



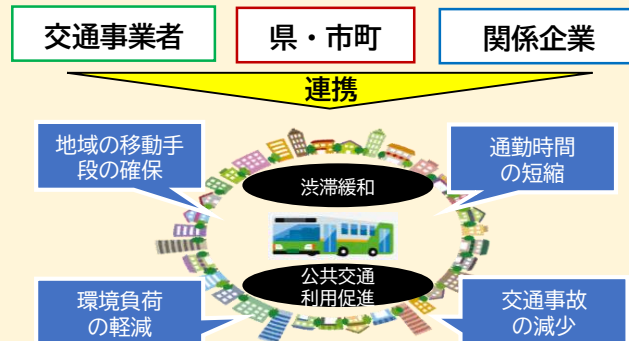
道路ネットワークの強化

- TSMCの新工場建設を契機に、更なる企業集積の進展が見込まれることから、阿蘇くまもと空港へのアクセスをはじめ、人や物の流れを担う幹線道路の円滑な交通確保が、現在にも増して重要となっている状況
- セミコンテクノパーク周辺への交通アクセスの向上を図る道路ネットワークの強化・検討を実施



菊池南部地域の渋滞緩和に向けたバスの実証運行 (R5実施予定)

- セミコンテクノパークへは公共交通機関で到達できる範囲が乏しく車通勤が選択されている状況
- 公共交通機関の利用を促進する等により交通渋滞を緩和し、セミコンテクノパーク周辺の交通アクセス改善を図る取組みを実施





本日議論いただきたい内容

『阿蘇くまもと空港の機能強化』 『企業集積とまちづくり』 の
観点で、**50年後100年後の未来を見据え、**
阿蘇くまもと空港と周辺地域に期待する役割は

今後のスケジュール（予定）

日 程	内 容
令和5年 6月	有識者会議（今回）
令和5年 8月～9月	有識者会議からの提言
令和5年10月	新大空港構想の策定（公表）